

社会福祉法人カリヨン子どもセンター News Carillon No.57

大丈夫。一緒に考えよう。
ひとりぼっちじゃないんだよ。あなたは大切な人。

「子どもの声を、ともに聴く」

理事長・弁護士 相川 裕

ぼくぼく ひとりでついてあた
わたしの まりを
ひょいと
あなたになげたくなるように
ひょいと
あなたがかへしてくるように
そんなふうになんでもいったらなあ
(八木重吉「鞠とぶりきの独楽」より)

むかしむかし、あるところに、子どもシェルターの運営に関わるおじさんがいました。
あるとき、おじさんが自分の無力さ・ふがいなさを痛感する出来事がありました。

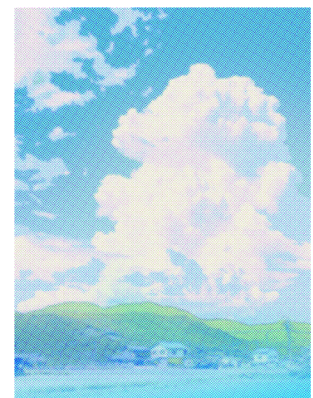
家庭でのしんどい状況をなんとか耐えてきた16歳の子が、子どもの人権110番にSOSの連絡をし、相談を受けた弁護士が子ども担当弁護士となったケースについてのことです。その子を引き続き支援し

ていくには、ある窓口の関与が必要でした。その窓口の担当者に分かってもらうため、その子は自分が家庭で受けてきた仕打ちや、それによってどれほど傷ついてきたかを、本当に一生懸命に言葉にしました（よく知らない相手に自分のつらい経験を語ることはかなりつらいことです）。それは、傍で聞いていたおじさんが感銘を受けるほどだったのですが、しかし、結果的には、その子が望んでいた形での支援は受けられませんでした。

もちろん、一番傷ついたのはその子ですが、おじさんもとてもがっかりしましたし、傷つきました。「たしかに私に聞こえていたあの子の『声』が、あの人たちには聞こえていなかったのだろうか？」（おじさんは職業柄、他人のことでいちいち傷ついたりほしくないほうなのですが、このときは、その子の気持ちを考えると、つらくてたまらなかったのです。）その当時、世の中では、子どもがさまざまな形で傷ついて

INDEX

🌻子どもの声を、ともに聴く 理事長・弁護士 相川 裕	P1
🌻カリヨン木かげの家 新しい職員からご挨拶	P3
🌻カリヨン茜の家 星に願いを	P3
🌻カリヨンとびらの家 素敵な若者たちとの出会いに感謝	P4
🌻カリヨンタヤけ荘 名前は覚えられないけど大人気のスープ	P5
🌻カリヨンハウス◎通信 初夏のBBQイベント！	P5
🌻2024年度事業報告	P6
🌻2024年度決算報告	P12



いること、それに対する支援が必要であることが、だんだんと知られるようになり、少しずつ法律や制度も整備されてきてはいました。

しかし、本来ならその子が使えていいはずの「制度」が使えない……。

それぞれの団体や機関が、それぞれの持ち味や役割や権限を持ち、相互に連携して、適切な支援を、それを必要としている子どもに繋ぐ、ということになっていましたが、実際には、その連携がしばしばちゃんと機能しなかったのです。

少し時間が経ち、悔しさや憤りやふがいなさといったものが少しずつ沈殿してきたころ、その子のことを案じながら、おじさんは「たしかに私に聞こえていたあの子の『声』を、どうしてあの人たちとともに聴けなかったのか？」と思いました。自分にもっとできることがあったのではないかと、どうしたらよかったのか、と。

「子どもの声を聴く」ということがどういうことなのか、そして「子どもの声を連携する団体や機関がともに受け止め、ともに子どもの思いを感じとり、ともに子どもの願いになんとか応えようとする」とはどういうことなのか……。

「聞く耳を持つものの前でしか言葉は紡がれない」 (上間陽子)

そうだとしたら、いったいどうやって、聞く耳を持つ者であることができるのでしょうか。それにはおそらく、『本人から見える世界を理解する』という視点や所作を身につけなければなりません。

では、さらに進んで、連携する団体や機関がともに、子どもの声を聴くためには、どうしたらよいのでしょうか。

おじさんには答えがありませんでしたが、子どものためのチームであること（子どものための連帯）、そういったことが大事なのではないか、と、ぼんやり、考えていました。

困難な状況にある子どもたちは往々にして自尊心が育っていないし、大人への根深い不信感があります。相談の内容も、困りごとなのだから当然、言葉にしづらいし、言うのも恥ずかしいようなことだったりします。ですから、子どもたちがSOSを発信するハードルはものすごく高いし、逡巡しているうちにどんどん事態が悪化する…、ということになりかねません。

おじさんは、そうしたことについての理解を日々更新しながら、そして、また、柔軟さを失い視野も狭くなりがちな自分の心身を日々ほぐしながら、とりあえず「アサーティブに行こう!」と考えたのでした。

それから、仲間に愚痴をこぼしたり、お風呂場で音楽を聴いてマインドフルネスしたり、「明日がんばろう!」と自分をねぎらったり励ましたりしながら、とりあえず「アサーティブに行こう!」の精神で、おじさんは過ごしました。そうしているうちに、ひとり、またひとりと、子どもたちの声を聴くひとたちがふえてきました。子どもたちの声に応える人たちも増えてきました。というよりも、そういう人たちがたくさんいる、ということに気付くようになったのかもしれない。おじさんはあいかわらず、悔しがったり、憤ったり、ふがいなかったりもしていますが、「うまれてきてよかったかも」と思っているようです。とっぴんばらりのぶう🌻



Photo by Satoshi Osaka
カリヨンハウスBBQイベントより (詳細P5)

子どもシェルター カリヨン木かげの家

～新しい職員からご挨拶～



2024年8月9日にカリヨン木かげの家に入職しました千葉と申します。

前職は少年院ということで、20年近く矯正教育に携わってきました。特に、知的障がい、発達障がいを有している、もしくはそれに類する子どもたちと多く関わってきました。また、被虐待体験を有していたり、非行が進んだりした子どもたちが多く、今思えば「向き合う」ことが多かったと思っています。

前職を踏まえ、シェルターにおける支援などについて考えるようになり、入職させていただきました。入職当初は、不安もありましたが、現在は、職員の皆さんのサポートのお陰で少しずつ慣れてきました。とはいえ、普段の生活の中での関わりは、入居者さんたちとの関わりがメインとなります。まだ勤務して、1年にも満たないですが、今振り返ると、入居者さんたちの声掛けで助けられたことも多くありました。

入居者さんたちにも大きな悩みや不安があります。もちろん話を聞いたり、見守ったりすることが、自分の役割だと考えています。しかし、職員が不安なとき、困っているときも当然あります。そんなとき、入居者さんからのさりげない一言、声掛けがあったりします。自分に余裕がなくなっているときでも、入居者さんのそういった言葉や行動に救われます。自分がではなく、一緒に考えたり、つながりを大事にしたりすることが重要なんだと、より一層考えさせられました。

これからも、入居者さんたちとの日々の関わりや積み重ねを大切に進んでいけたら良いなと思っています。最後になりましたが、法人の活動へのご理解・ご協力、様々なご支援等、誠に感謝しております。感謝の気持ちを忘れず、子どもたちとの日々を大切に積み重ねていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。🌻

昨年の10月から木かげの家の職員としてお世話になっております、久保田と申します。児童福祉に関わらせていただくのは2017年に一時保護所の夜間職員として働き始めてからでした。それまでは全く違う職種で働いていたため、右も左もわからずこの世界に足を踏み入れました。個性豊かな子どもたちに囲まれて仕事をしているうちに、もっとたくさんを知りたい、もっと深く関わられるようになりたいと思うようになり、カリヨンへ入職させていただくこととなりました。

シェルターでの生活は、自由ではありません。好きな時に好きなことをすることは難しく、限られた時間で限られたことしかできない、好きな動画も見られません。窮屈な場所とも言えるでしょう。その限られた枠の中で利用者の皆さんは工夫をして過ごし、スポーツ中継やボードゲームの勝敗に情熱を注ぎます。その姿にいつも励まされ、頭の下がる思いでいっぱいです。根底にあるものを覆すことは難しく、やりきれない思いに苛まれることも少なくはありません。それでも、この木かげでの生活が少しでも安らぎになるように、そしてこれからの生活が陽だまりになるようにお力添えができれば願って、今日も私はお米を研ぎ、フライパンを振ります。

木かげの家で働くことになり、改めて人と人との関わり大切さを実感しています。皆様のお力添えがあってこのシェルターが守られていること、またその一員になれた事を嬉しく思います。その想いを大切に、入居者から見たら職員という形ではありますが、子どもと大人ではなく、人と人との関わりであることを大切に、これからもたくさんの人達の未来を応援していければと思っています。まだまだ知らないことも多く、先輩職員から教わることばかりですが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。🌻



子どもシェルター カリヨン茜の家

～星に願いを～

梅雨が明けて夏がやってきました。今年の暑さは完全にフェーズが上がったように感じています。「危険な暑さ」というのはこういうことなのか……を体感し、理解しました。梅雨が明ける少し前には、七夕を楽しみました。短冊に願いをしたため、折り紙で飾りを作って笹を飾り付けました。みなさんの願いが色とりどりに揺れました。

茜の家は、シェルターという短期的な居場所を提供する場所ではありますが、一年を通して、季節を感じる行事を大切にしています。その行事に心が触れる感触を大切にしたいと思って準備を進めています。当日のご飯をご準備いただいているスタッフの方々も同じ思いでいて

いただけることにも、深く感謝しています。そこに居る彼女たちが、その特別な時間を体験して、「きれい！おいしい！」と声をあげて楽しむ姿を見ていただけないのが残念でなりません。

そして、そういった体験から、時間の流れを愛おしく感じられるようになったらいいなと感じています。「いつかその瞬間を誰かと一緒に楽しむことができますように…」と心から願っています。星に願いを…。



行事は提供できるお楽しみですが、彼女たちには、日常的に自分たちを支えていた「楽しみ」があります。「（家を出るときに）推しは持ってきた！」と話していた子も何人かいました。「推し」さんたちは、彼女たちの眠れない夜に寄り添ってくれています。短期とはいえ、その日常から離れることは、想像以上に厳しいと思っていますので、最近では、聴ける音楽を増やすこと、読める漫画を充実させることを目指している……のですが……。昨今の膨大な量と信じられないほどの種類のコンテンツ、サブスクの定着で、ネットを使用しない「エンタメ力の強化」には限界を感じています。「いいアイデアないですか〜！」とネットの波に問いかけてみても、なかなか解決法が見つからないのが現状です（何かいいアイデアをご存知でしたら教えてください！）。

自立援助ホーム カリヨンとびらの家

私は、「とびらの家」で週1度共有スペースのお掃除と夕食づくりをしているボランティアのひとりです。カリヨンの弁護士さんから「とびらの家」のご紹介をいただき最寄りの駅から汗をフキフキ、テクテク歩いてとびらの家の門扉を開けてから早1年が過ぎました。

とびらの家は古いおうちですが、きれいに整えられているのでお掃除は（私のシェイプアップのため）雑巾がけをする程度です。夕食づくりは献立の指定がなく、他の方は毎回、専門店で食べるような美味しうおしゃれな品を作られていますが、私には、とっても無理なので私ができる夕食にしています。寄贈や他の方が購入した食材が冷蔵庫の中にある時はそれらを使って若者が好むようなレシピをスマホで検索します。蒟蒻の寄贈がたくさんあった時「こんにやく唐揚げ」なるレシピを見つけ作ってみると案外美味しくヘルシーでヒットな一品だと思ったのですが、若者たちは「カラアゲ！」と喜んで食べたら、「こんにやく〜？」という失望感に変わったという感想を後日聞き申し訳ないことをしたと反省しました。

そんな私ですが、昭和から令和にかけて都内の児童養護施設に40年近く勤務しておりました。児童養護施設は、2歳から18歳までの子どもたちの人生の大切な時期を施設で育てる仕事だと考えています。その内容は、掃除、洗濯、食事づくりの家事全般、1歳児の幼児のおむつ外し、教室を飛び出す小学生の見守り、補導された中学生の引き取り、進級が危うい高校生と学

それでも、シェルターという特別な場所だからこそ、前を向くために過ごす場所だからこそ、そこに居る時間が心の安心につながればなあと思っています。「食べる」、「寝る」、「楽しむ」の次に「人」の出番があるように思っています。皆様からの援助やご寄付にお力をお貸しいただき、彼女達の毎日を支えさせていただいております。どうか引き続きお力をお貸しいただきたく、図々しくもお願い申し上げます。星に願いを2…。🌻

（職員 中島朱美）



～素敵な若者たちとの出会いに感謝～

校との面談、業務でのPTA役員、四季折々の行事、夏冬休み行事のキャンプ、山登り、海水浴、スキー、などなど。勤務形態は通勤制の宿直と日勤でした。元気あふれすぎの子どもたちと個性豊かな職員集団との「飽きる」ことのない毎日でした。

長く勤めていると、大人になった卒園生たちと時折会いましたが、施設に対して「（難しい時期）面倒みてもらい施設で育ってよかった」「卒園してから施設に行く自分育ててくれた大人と会えることがうれしい」との言葉を言ってもらえて涙が出ました。そしてそれぞれの人生を逞しく生きている卒園生たちはこちらが、励まされ元気をもらいます。一方で、「あの子は今頃、どうしているかなあ」と考える卒園生もたくさんいますが、卒園生のネットワークから（長い人生あたりまえですが）いろいろありつつも元気に生活しているということがわかったと、またうれしくなります。

この頃、若い人たちが関わる悲しい悲惨な事件がいろいろ起きています。「今の若い人はこわい〜」と思われるかもしれませんが、卒園生に接していると「今の若い人たちは素敵！」と思います。

そして、とびらの家の若者たちも素敵です。とびらの家の若者たちは、どの人も挨拶はしてくれるし、話しかけると必ず返してくれ（しかも、みんな敬語で！）幸せな気持ちにさせてくれる若者たちですね。出会いに感謝です。微々たる応援ですが、よろしくおねがいします。🌻

（ボランティアスタッフ 硯 喜久美）

自立援助ホーム カリヨンタヤけ荘

～名前は覚えられないけど大人気のスープ～

一瞬、冷夏を期待しましたが、すっかり元通りの猛暑、タヤけ荘はお庭の夏野菜やご寄付でいただく大きなスイカを食べながら、みんな頑張って、なんとか夏を乗り越えようと日々奮闘しております。

健康の資本はやはり日々の食事です。

お庭の夏野菜はトマト、ナス、きゅうりに始まり、夏になると紫蘇なども繁り、食欲を助けてくれますし、6月末に採れたじゃがいもを使ったメニューも利用者からリクエストが出るほど人気です。

他のホームでもそうですが、タヤけ荘でも行事に合わせて特別メニューが出ます。七夕では人気のヴィシソワーズスープがリクエストされました。

ところで、ヴィシソワーズスープとはどんな料理なのか、みなさんご存知でしょうか？

じゃがいもを使った冷製スープで、あまりの美味しさにみんな口を揃えて「アレまた作って欲しい!」とリクエストしています。タヤけ荘で目にするまで存在も名前も知らなかった職員もあり、未だに「えーと、あの、おしゃれなスープ、なんて名前だったっけ?」と周りに尋ね、聞かれた人も忘れて、一緒に唸ってしまう光景もしばしば(笑)

七夕では他にも色が二層に分かれた綺麗な七夕ゼリーなどを、職員二人がかりで力を合わせて作りました。みんなあまりの綺麗さに大喜び。その日来所していた卒業生も一つ持って帰ったそうです。

ヴィシソワーズスープを始め、卒業後も〇〇さんのアレが食べたい!と嬉しいことを言ってくれる利用者の子がいます。卒業後に食べに来たり、レシピを聞いたり、実際に一緒に作ったりして、タヤけ荘の味はタヤけ荘と利用者を長らく繋いでくれます。

そんなこともあり、タヤけ荘のレシピ本があったら、卒業するときに渡せて良いなあ。なんて計画が持ち上がったたり、なかったり? 予定は未定ですが、完成をお楽しみに……!?

楽しみ、と言えば、株式会社イーネット様より夏のレクリエーションにとご寄付をいただき、タヤけ荘では夏の外出を計画中です! 予定を合わせ、どこに行くか、何をするのか、一緒にああでもないこうでもないと頭を悩ませるのも、貴重な時間です。

この夏はママになった卒業生との交流がありました。なかなか職員への警戒を解かない娘さん。抱っこさせてもらえず寂しがる大人たち。帰り際には手を振ってくれて、笑顔になりました。ホームに遊びに来てくれた兄妹。一緒に野菜を収穫したり、トランプで遊んだり、楽しい一時をありがとうございました!

子育ては苦労も多く大変ですが、奮闘する卒業生の姿にこちらも励まされました。他の卒業生からの連絡や相談も多く、夏バテしている暇はありません! 猛暑が続く、食欲も落ちがちですが、美味しいものをたくさん食べてこの夏も乗り切りましょう! 🌻(職員一同)



ディケア事業 カリヨンハウス ☺ 通信

～初夏のBBQイベント!～



このイベントのために渡部安穂さん(J-0schis)がデザインしてくれたロゴマーク!

2025年5月、カリヨンハウスで初夏BBQイベントを、立川市の昭和記念公園で開催し、総勢59名が参加(子ども若者37名、職員・理事等22名)しました。乾杯の挨拶は、ケアリーバーのおひとりご、ご自分のお子さん(中学生)と共につとめてくれました。

事前・当日朝に、職員がコストコへ出かけ、美味しいお肉を約20kg、野菜、マッシュマロ、スイカ、ピング大会の景品、飲み物等をお買い物させていただきました。

約20年間の間にカリヨンと出会った皆さんが集まってくれていますので、それぞれの方のカリヨン利用時期は異なりますが、ケアリーバー同士も、このひとときを一緒に楽しもうとお互いに気を配りあってくれました。全員がお腹いっぱい、胸いっぱいになる時間を過ごすことができましたようで、よかったです。

ケアリーバーの皆さんと久々に会えること、カリヨン

は変わらず皆を応援しているよという気持ちを表明するために、こうした贅沢なイベントが実施できること、お支えくださる皆様に感謝です。

入園料やBBQエリアの利用料は一般社団法人日本フイランソロピー協会の誕生日寄付によるご支援、コストコでの

お買い物もコストコホールセールセールのジャパンのご支援を頂戴しました。感謝をこめて。🌻



社会福祉法人カリヨン子どもセンター

2024年度事業報告書

(ニュースレター用抜粋版)

① ご支援に感謝申し上げます

2024年度も当法人の活動への物心両面のご支援を賜り、支援者、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。子どもたちの進学ニーズが受け止められてきたことや、物価上昇等の社会的な変化に対応するように公的補助は増えていますが、今もって、子どもシェルター事業は赤字となる実態があります。

利用者が生活していけば、どうしても建物や備品も摩耗します。こうした修繕や環境整備のために使える公的補助はなく、ご寄付による蓄えに支えられています。当法人では、数年以内の間に、施設の増改築の具体的な計画を持っています。

② 法人設立20周年を迎えて

国連子どもの権利条約日本批准30周年・カリヨン子どもセンター設立20周年記念イベント「ここに、これから」(2024年12月17日・赤羽会館講堂)を開催しました。160名のご来場をいただきました。

カリヨン子どもセンターの20年間の歩みは、被害を受けた子どもたちの権利回復、権利擁護、意見表明の機会保障等、子どもの権利条約の理念を基盤にした実践であったことを、音楽で、対話で、ゲスト(フリースペースたまりば理事長 西野博之さん等)の方々の新鮮な視点を交えながら振り返りました。

子どもの思いを真ん中に、おとなたちが力をあわせて、共に生きる道を模索する、というカリヨン子どもセンターの基本姿勢を継承しつつ、時代の変化や多様な在り方に應對していける活動を目指していこうと思いを新たにすることができました。

主催 社会福祉法人カリヨン子どもセンター
後援 東京都北区
子どもシェルター全国ネットワーク会議
全国自立援助ホーム協議会
協賛 日本フィランソロピー協会「誕生日寄付」
協力 住友金属鉱山株式会社・日本生命保険相互会社



③ 子どもシェルターの名称変更

施設名に性別名が含まれているって、しっくりこない、という声がおとなからも、子どもからも聞かれるようになり、法人設立20周年の節目を好機ととらえて、名称を変更しました。新しい名称は、子どもシェルターの元利用者、法人職員や理事たちから募集した名前の中から選ばれました。

- ・ カリヨン子どもの家ガールズ→カリヨン茜の家
- ・ カリヨン子どもの家ボーイズ
→カリヨン木かげの家

④ 連携・協力

- ・ 東京弁護士会子どもの権利条約日本批准30周年記念シンポジウム・もがれた翼朗読劇「FMクレオラジオVOICES」に協力(2024年12月14日)。
- ・ 東京都きみまも@歌舞伎町の意見交換会へ参加。
- ・ 朝日新聞厚生文化事業団との協働、「まなび応援フォーラム」(2025年1月19日・オンライン)開催。「ぴあ応援ラジオ」へカリヨン職員が出演。
- ・ 子どもシェルター全国ネットワーク会議(当法人が事務局担当)2025年3月現在、25団体(23地域)が加盟。子どもシェルター全国ネットワーク会議in埼玉(2024年9月28日～9月29日)開催。
- ・ こども家庭庁「こども若者シェルター」に関する検討委員会に理事の馬淵が委員として参加。
- ・ 公益財団法人日本フィランソロピー協会と日本生命社員有志で実施する日本生命プロボノプロジェクトを受託し、プロボノメンバーによる伴走支援を受け、法人の抱える広報についての課題や20周年イベントへの助力を得ました。

⑤ 男子シェルターの休止期間と、 リニューアルプロジェクトチーム

10代後半の男子のシェルターニーズを改めて把握し、それを踏まえたシェルターのあり方を考えること、職員体制の諸般の事情から、カリヨン子どもの家ボーイズ(当時)を2024年3月～8月上旬まで一時的に休止し、リニューアルのための準備、調査、協議に注力するプロジェクトチームを実施しました。

PTでの検証を経て、男子のシェルターニーズはあると結論づけましたが、児童相談所等関係各所からの入居時の手続きが煩雑だという意見をふまえて受入れフローを見直しました。職員体制整備を図ることができ、男子シェルターを再開しました。

子どもシェルター

「カリヨン茜の家」(女子・定員6名)

「カリヨン木かげの家」(男子・定員6名)

※木かげの家は2024年8月中旬～2025年3月末までの実績

①年間利用実績：年齢別（人）

年齢	茜	木
14歳未満	1	0
15歳	2	0
16歳	1	0
17歳	2	3
18歳	3	4
19歳	3	0
20歳	0	0
計	12	7
(2023年度からの継続入居者数再掲)	(0)	(0)

②入居理由（人）

本人の主訴（重複あり）	茜	木
心理的虐待	11	6
身体的虐待	3	4
ネグレクト	2	0
自立（精神不調を含む）	1	0
非行（試験観察・保護観察）	0	1
金銭搾取	1	1
その他	3	3

③家族の状況（人）

家族構成	茜	木
実父母	6	3
ひとり親家庭	4	3
ステップファミリー	2	1



④入居前に生活していた場所（人）

場所	茜	木
家庭	4	3
社会的養護	1	1
ネットカフェ	2	0
一時保護所	0	2
親族宅	2	0
病院	0	1

⑤子どもの健康状況（人）

通院治療	茜の家		木かげの家	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
精神科・心療内科	2	17	2	9
内科	4	7	1	1
外科・整形外科	1	1	0	0
耳鼻咽喉科	1	1	0	0
歯科	1	1	0	0
皮膚科	1	1	1	4
眼科	3	3	1	1
産婦人科・婦人科	2	5	0	0
計	15	36	5	15

⑥退居先実績（人）

退居先	茜	木
家庭復帰	2	2
自立援助ホーム	3	1
児童養護施設	0	1
児童相談所一時保護所	3	0
精神グループホーム	2	0
養育家庭	1	1
親族宅	1	0
住込み就職	0	1
計	12	6

⑦スタッフの状況（人）

職種	茜	木
ホーム長（常勤職員）	1	1
チーフ（常勤職員）	1	1
児童指導員（常勤職員）	2	3
体制強化補助職員（非常勤）	0	1
計	4	6
有償ボランティア（日勤）	4	5
有償ボランティア（宿直）	2	0
計	6	5

⑧会議の開催状況（回数）

会議名称	茜	木
ケース会議（子どもも参加）	23	11
関係者会議（子どもは不参加）	30	15
家族会議（家庭調整を含む面談）	2	2
カリヨンホーム長会議	5	
全体職員会議	2	
職員会議	15	12
カリヨン担当弁護士会議	3	

⑨人権擁護への取り組み

茜の家
カリヨン権利擁護推進室について、インテーク時にホームの約束事と一緒に案内。権利擁護推進室について、共有空間に案内を掲示。
木かげの家
・カリヨン権利擁護推進室について、インテーク時にホームの約束事と一緒に案内。権利擁護推進室について、共有空間に案内を掲示。 ・18歳以上であれば自主退居は簡便である。 ・週次モニタリング（職員と1対1の面談）。 ・退居時アンケート（入居中は言いにくくても退居時には言ってスッキリ出て行ける！）。 ・意見箱を設置。2024年度の利用は0件。 ・意見を言うのが困難な人への配慮を慎重に。

⑩苦情相談の状況

茜の家
・ホーム内、特に居室が寒い。 ⇒10月にもかかわらず夏用の薄手のワンピース等の着用をしていたため、職員から何度も季節に合うものを着用することや上着の貸出をすることを話した。 ・寝具等をあたたかい冬用のものを出す。必要に応じて湯たんぽ等も使用して対応した。
木かげの家
・居室にDVD再生機器あれば一人になりたいときに便利。 ⇒予算面および居室に籠る利用者が増加するため不採用。 ・マンガの続刊を補充して欲しい。 ⇒適宜補充した。 ・提供される食事量が多すぎる。 ⇒減量希望者には減量した。 ・消灯時間を無視させてほしい。 ⇒却下 ・外出機会を増やして欲しい ⇒職員5名体制になったことにより利用者ごとの外出機会を増やすことができている。

・（児童相談所から）子どもシェルターは入居までに質問が多く時間がかかるのが不便。 ⇒リニューアルPTにて改善した(初報時の事務局対応の質問書式整備、ホームと児相の直接の連絡、カリ担との情報共有高速化) ※同対応を茜の家も導入

⑪施設・環境

茜の家
浄水フィルター交換、落雷により故障したインターホン交換、施設内害虫駆除作業、ベッドマットレス交換、居室CDラジオ交換、居室クッションを座椅子に変更、CD・漫画の新規購入
木かげの家
（休止中に重点的にオーバーフロー）居室ベッド2台・共用部ソファ2台買替え、居室壁の修繕、炊飯器買替え、テレビ・パソコン故障にて買替え、カーペット・ふとん・シーツ類の廃棄

⑫防災対策・避難訓練の実施状況

茜の家
ヘルメットの使用方法確認、避難リュックの場所、中身の確認。避難場所への経路の確認。ホーム内の避難経路、地域のハザードマップの掲示。
木かげの家
緊急持出し袋の内容物確認、追加購入。新入居者にヘルメット、緊急持出し袋の収納場所、緊急時避難場所を説明。ルート地図の掲示。 児童相談所等への外出時に避難ルートを説明するようにしているが、近隣エリアへの外出に支障ある入居者には実施できない。

⑬職員研修参加回数（出席のべ人数）

	茜の家	木かげの家
外部研修	14 回（17 名）	3 回（3 名）

⑭外部機関連携

茜の家	木かげの家
弁護士、児童相談所、子ども家庭支援センター、福祉事務所、病院、学校、自立援助ホーム、児童養護施設等と子どもの支援を通じて連携	

⑮もう一言

茜の家
所謂ヤングケアラーとなって、家庭が辛いと思いながらも離れることにも抵抗を感じている利用者が複数。家族等の追跡に対して強く怯え、実際にスマートフォンの GPS を利用して追跡されることも起きた。今後も子どもシェルター施設の秘匿性や安全性について十分な配慮していくことが必須と再認識した。職員の業務改善、チームワーク形成継続中。
木かげの家
職員の新規採用が叶い、新たなメンバーでのチームビルディングに取り組んでいる。職員 5 名体制になったことで、利用者のスポーツ外出、カリヨンハウスの利用送迎等を木かげ職員が担う機会が増えている。

デイケア事業 カリヨンハウス

2024 年度の利用実績 193 件

六右衛門屋敷の充実した環境を活用して、若者との交流や地域との交流等、可能性を拓く方針をもって各種イベントを運営。「Café & bar ろくえもんやしき」44 名、「ろくえもんの秋まつり」66 名参加。

＜カリヨンハウスメニュー実施実績（件）＞

学習・パソコン学習	14
英会話	7
カウンセリング（内電話カウンセリング 46 回）	74
鍼灸・足つばマッサージ・マッサージ	30
ギター・ピアノ・ボイストレーニング	9
ダンス・ボクシング	2
おでかけ（映画鑑賞 猫カフェなど）	14
ヘアカット・ドライヘッドスパ	7
クッキング・テレビゲーム	9
ゆんたく（対面・電話・アウトリーチ）	23
スポーツ（体育館利用）	4
計	193

子ども支援金交付事業

名称	2024 年度実績
内海奨学金・支援金	カリヨンの子どもシェルター、自立援助ホームの子ども、ケアリーバー 1 名へ支給
スタート応援金	カリヨンの各ホームの子ども 7 名へ支給
コストコ奨学金	全国の子どもシェルターの子ども、ケアリーバー 計 35 名へ支給
まなび応援金	全国の子どもシェルター、自立援助ホームの利用者、ケアリーバー、計 659 名を支援
みんなのあゆみ応援金	東京都内の子どもシェルター、もしくは自立援助ホームを利用している方、14 名を支援

自立援助ホーム

「カリヨンとびらの家」(男子・定員6名)

「カリヨンタヤけ荘」(女子・定員6名)

①年間利用実績：年齢別（人）

年齢	と	タ
17 歳	1	2
18 歳	0	3
19 歳	1	2
20 歳以上	3	2
計 (2023 年度からの継続入居者数再掲)	5 (5)	9 (6)

②入居理由（人）

本人の主訴（重複あり）	と	タ
心理的虐待	3	7
身体的虐待	3	5
ネグレクト	2	3
性的虐待	0	1
金銭搾取	0	2

③家族の状況（人）

家族構成	と	タ
実父母	1	3
ひとり親家庭	4	3

④退居先実績（人）

退居先	と	タ
ひとり暮らし、社員寮	1	1
家庭、（一時保護）	0	2
一時保護所	0	1
計	1	4

⑤入居前に生活していた場所（人）

入居前に生活していた場所	と	タ
家庭	1	1
社会的養護	2	3
一時保護所	1	0
計	4	4

⑥子どもの健康状況（人）

通院治療	とびらの家		タヤけ荘	
	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
精神科	1	1	4	4
内科（コロナ疾患含）	1	1	3	3
歯科	1	1	0	0
皮膚科	1	1	0	0
耳鼻咽喉科	1	1	1	1
眼科	0	0	2	2
計	5	5	10	10

⑦アフターケア（人）※同利用者の同用件は1日分で1回

対応	とびら	タヤけ
電話・メール相談	166	300
自宅・職場訪問	6	36
来訪（その他）	108 (29)	14
計	309	350

⑧スタッフの状況（人）

職種	と	タ
ホーム長（常勤職員）	1	1
チーフ（常勤職員）	1	0
児童指導員（常勤職員）	2	3
非常勤 ※体制強化職員含む	2	1
計	6	5
有償ボランティア（日勤）	3	3
有償ボランティア（お庭整備）	0	1
計	3	4

⑨会議の開催状況（回数）

会議名称	と	タ
ケース会議（子どもも参加）	0	4
関係者会議（子どもは不参加）	3	1
全体職員会議	2	
職員会議	12	12
カリヨンホーム長会議	5	

⑩人権擁護の取り組み

とびらの家・タヤけ荘
・児童居室を個室とし、個人空間を保障。施錠可。 ・入居時に権利擁護推進室の案内（担当者・連絡方法）をし、子ども担当弁護士の連絡先も合わせて記した用紙を渡す。共有スペースに掲示案内。

⑪施設・環境

とびらの家	タヤけ荘
ホーム内美化衛生の徹底、樹木剪定、フラワーセラピー（心理職による）	洗濯機、オーブンレンジ、エアコン買い替え

⑫苦情相談の状況

とびら	タヤけ荘
特になし	居室狭く、空き部屋への移動希望。 ⇒事情説明しつつ、移動認める。 ※今後も同様の要望は続くと思われ、検討必要。

⑬防災訓練の実施状況

とびらの家	タヤけ荘
非常災害訓練（夜間）の実施。入居時に避難場所確認。リビングルームに避難所マップを常時掲示。	避難・消火・通報訓練の実施。

⑭職員研修参加回数（出席のべ人数）

	とびらの家	タヤけ荘
外部研修	15 回（15 名）	25 回（26 名）

⑮外部機関連携・交流促進

	とびらの家	タヤけ荘
見学	他法人児童養護施設職員、大学生等	他法人自立援助ホーム職員、大田区議、大学生
講師	大学、専門学校のゲスト講師	教育庁 YSW 研修等のゲスト講師

連携	各児童相談所、児童養護施設、立川市子ども・若者自立支援ネットワーク会議、退居児の就労先雇用主、市役所・区役所、各社会福祉協議会、ブリッジフォースマイル、東京都社会福祉協議会、東京善意銀行、医療機関（精神科）、首都圏若者サポートネットワーク、全国自立援助ホーム協議会、教育庁、NPO 法人 育て上げネット（進路支援）等	全国自立援助ホーム協議会、東京都社会福祉協議会、児童相談所、子ども担当弁護士、児童養護施設、児童自立支援施設、学校、医療機関（精神科）・雇用関係者、首都圏若者サポートネットワーク、生活クラブ共済事業連合生活協同組合連合会、大田区社会福祉協議会等

⑯もう一言

とびらの家
・ BCP 計画の策定に着手した。 ・ 社会福祉士の実習受入れ体制整備が課題。
タヤけ荘
・ 自立支援の選択肢として、法人契約でのアパートでの自立訓練やリゾートバイトを認めた。 ・ メンタルケアが必要な利用者には、従来の就労・就学支援だけでは十分でなく、対応に人手がかかり、職員の精神的な負担も大きい。職員のメンタルケアは法人全体の課題。 ・ タヤけ荘事業拡大 PT を立ち上げ、地域ニーズ調査と関係団体との連携強化に注力開始。施設の建替えもしくは移転について要検討。 ・ 職員新体制にてチームワークの構築中。職員会議の回数を増やそうとしたが、休暇取得との両立が難しく実現できなかった。研修機会の確保と共有、業務分担は継続課題。

2024年度決算報告書（資金収支内訳書）

(千円)

		合計	法人本部	茜の家	木かげの家	とびらの家	タヤけ荘	ハウス	支援金
事業活動	児童福祉事業収入	170,547	0	35,490	22,725	56,073	56,256	0	0
	経常経費寄附金収入	118,890	24,867	0	0	0	526	1,800	91,696
	その他の収入	6,904	5,462	927	167	234	268	6	1
	事業活動収入計	296,183	30,331	36,094	22,893	56,308	57,051	1,806	91,698
	人件費支出	82,099	14,779	27,612	23,834	33,156	33,197	0	0
	事業費支出	104,127	0	2,296	1,902	4,509	5,150	1,318	88,913
	事務費支出	23,478	7,661	4,681	1,344	4,920	3,186	1,644	40
	その他の支出	800	0	207	119	234	238	0	0
	事業活動支出計	260,955	22,440	34,797	27,201	42,820	41,773	2,963	88,958
	事業活動収支差額	35,522	7,890	1,621	-4,307	13,487	15,278	-1,157	2,709
	施設整備等資金収支差額	-235	0	0	-235	0	0	0	0
その他	拠点区分間繰入金収入	2,636	0	0	2,636	0	0	0	0
	積立資産支出	14,000	0	0	0	7,000	7,000	0	0
	拠点区分間繰入金支出	2,636	2,636	0	0	0	0	0	0
	その他の活動収支差額	-14,000	-2,636	0	2,636	-7,000	-7,000	0	0
	2024年度資金収支差額	21,286	52,537	1,621	-1,906	6,487	8,278	-1,157	2,739
	2023年度末支払資金残高	129,699	73,934	0	1,906	7,928	5,034	13,152	27,743
	2024年度末支払資金残高	150,985	79,187	1,621	0	14,415	13,312	11,995	30,453

< 決算報告書についてのご説明 >

- ①児童福祉事業収入は、自治体からの委託費や一時保護委託費、自立援助ホームの利用料等による収入です。
②事業費支出は、子どもの生活に関する給食費、水道光熱費、教育指導費、教養娯楽費等の支出です。
③事務費支出は、施設管理に関する光熱費、家賃、通信運搬費、保険料、会議費、研修費等の支出です。
④法人本部からの繰入収入および支出は、皆様からご寄付いただいた資金を法人本部でとりまとめ、運営費が不足する各事業に繰り入れたことを指しています。

編集後記

災害級と言われる暑さの続く毎日ですが、皆さまには如何お過ごしでしょうか。News Carillon 57号をお届けします。今号では2024年度の決算報告及び事業報告を掲載しております。事業報告にもありますとおり、カリヨン子どもセンターではシェルターや自立援助ホーム、カリヨンハウスの運営の他に、子ども支援金交付事業や子どもシェルター全国ネットの事業として、子どもシェルターの新規立ち上げのお手伝いをしております。この度「子どもシェルター立ち上げブック改定版」が出来上がりました。これまでの子どもシェルターの実践や新規立ち上げのノウハウなどが掲載されております。詳細はホームページをご覧ください。まだまだ暑さが続くと思いますが、皆さまにはくれぐれもご自愛の上、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。(T.Y)



ホームページ内で
PDF版も公開中！



News Carillon No.57

本誌は、社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局が責任を持って編集、発行しています。
本紙に関するご意見、ご要望、掲載を希望する情報などがありましたら、下記までご連絡ください。

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

東京都北区赤羽西3-33-3

TEL 03-6458-9120 FAX 03-6458-9121

2025年8月27日発行（無断転載はご遠慮ください）